

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和3年12月9日

協議会名:今金町地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現況交通実態調査</li> <li>・町民ニーズ把握調査の実施・分析</li> <li>・バス利用実態調査の実施・分析</li> <li>・町民意見交換会の実施・整理</li> <li>・地域公共交通計画素案の内容検討</li> </ul> <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存データから移動の足が必要な地区を把握</li> <li>・ルンるん号の利用実績データから運行効率化及び他地区への拡大可能性を把握</li> <li>・町民ニーズ把握調査から町民の生活圏を把握するとともに、町内交通の改善点及び移動で困っていることを把握</li> <li>・バス利用実態調査から、町内を運行している函館バス路線の改善の方向性を整理</li> <li>・今後、町民意見交換会により、さらに詳細な町民ニーズを把握し、より具体的な施策内容の検討を実施予定</li> </ul>	<p>A</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、各種調査の実施が後ろ倒しになっているものの、今年度に予定している各種事業内容は完了予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度中に地域公共交通計画の方向性及び施策内容等を整理予定</li> <li>・来年度により具体的な施策内容及び目標値等の設定を行い、地域公共交通計画として取りまとめを予定</li> </ul> <p>対象区域:今金町全域 計画期間:令和5年度～令和9年度 計画の将来像: ふれあい今金「まちづくり」を実現する安心して生活できる公共交通網の構築 ～人のおでかけや生活を支え、未来を拓く交通網の構築～</p> <p>基本目標1 持続可能な”ドア・トゥ・ドア”で快適な生活移動を確保 基本目標2 生活移動の幅を広げる”公共交通”で安全な生活移動を確保 基本目標3 地域内資源である”ハイヤーの活用”で利便性の高い生活移動を確保 基本目標4 生活圏を考慮した”地域間幹線系統の見直し”で将来にわたって広域圏の生活移動を確保 基本目標5 公共交通をより身近に感じられる”利用促進策の展開”で公共交通も便利と感じる意識を醸成</p>

## 概要

今金町は日本を代表する清流である後志利別川と緑豊かな平野と丘陵が広がり、総面積は568.25km<sup>2</sup>で、人口は4,971人（令和3年10月末現在）であり、昭和55年時点と比較し、約半数にまで減少している一方で、高齢化は進行を続け、令和2年時点で41%と町民の約2人に1人は高齢者という状況である。本町内を運行する公共交通は、函館バス（株）により2路線3系統が運行しており、また本町独自の取組としてデマンド運行型のルンるん号をまちなかと郊外部4方面に運行をさせている。

一方、これら公共交通について、人口減少や少子高齢化の進行など社会情勢が変化する中で、地域公共交通への町民ニーズが変化しており、これら変化に対応するとともに、昨今の交通事業者の運転手不足等の諸問題への対応も含めた公共交通網の見直し方針を示すことが求められている。

## ○地域公共交通の現況

- ・函館バス（瀬棚線（721系統、743系統）、快速瀬棚号（710系統））
- ・今金町（まちなかルンるん号、ルンるん号（八束・白石方面、金原・豊田方面、日進方面、田代・稲穂方面）（スクールバス、患者輸送バス）
- ・東ハイヤー
- ・その他（通学定期券運賃補助事業、福祉有償運送実施事業）

## ○地域公共交通の課題

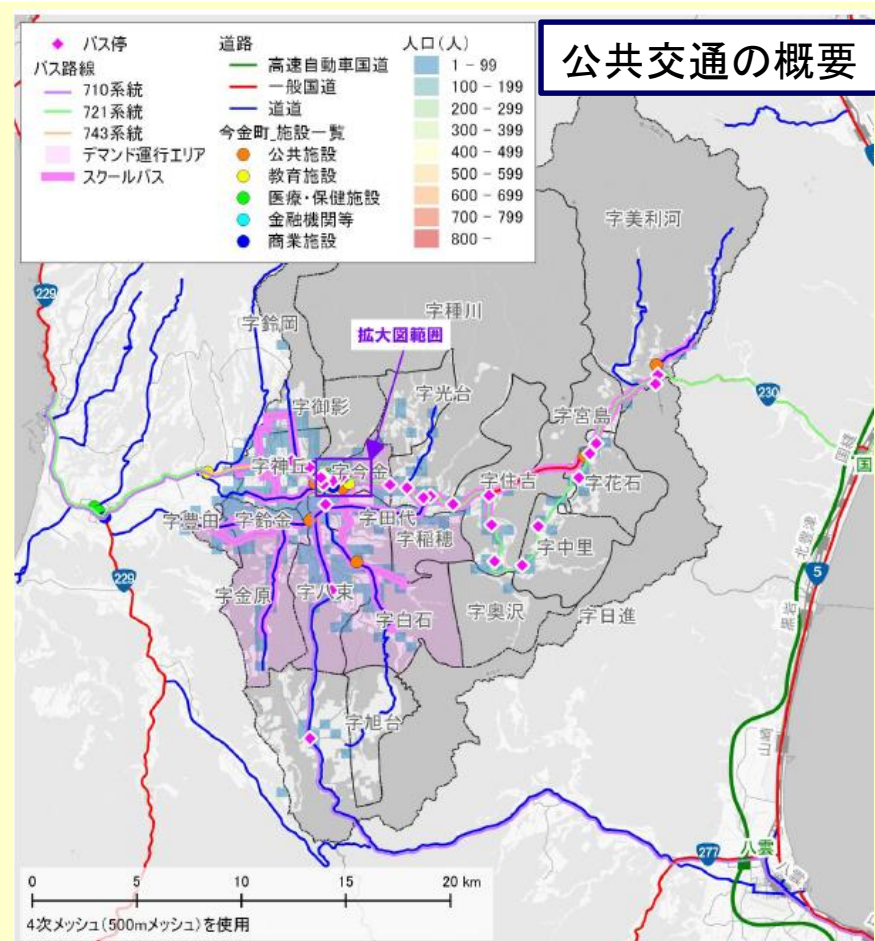
- ・全体最適を見越した路線バス運行内容の見直し
- ・町民が利用しやすい・利用したい町内交通への再構築
- ・幹線交通の維持確保方策の検討

## ○調査の主な内容

- ・現況交通実態調査（地域特性の整理、予約バス（ルンるん号）の運行実績データ分析
- ・町民ニーズ把握調査の実施・分析 ・バス利用実態調査の実施・分析
- ・町民意見交換会の実施・整理 ・地域公共交通計画素案の内容検討

## ○地域公共交通活性化協議会開催状況

- ・令和3年5月28日 第1回協議会を開催（書面会議）  
（地域内フィーダー系統確保維持計画について）
- ・令和3年8月2日 第2回協議会を開催（書面会議）  
（役員を選出、協議会収支予算、計画策定スケジュール、各種調査概要）
- ・令和3年12月9日 第3回協議会を開催  
（各種調査結果把握及び分析、今後のスケジュール詳細、維持改善事業評価）



# 今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

## ●事業の結果概要

### 1. 現況交通実態調査

- ・国勢調査やRESAS等のデータを活用し、人口の分布状況のほか、都市間の移動状況を整理し、地域公共交通計画における計画区域等の検討を実施
- ・公安委員会保有の運転免許証の返納データを活用し、運転免許証非保有者の分布状況を整理し、移動の足が必要となる地区の浮き彫りを実施
- ・バス停等の位置情報データを活用し、公共交通空白地域の特定
- ・ルンるん号の利用実績データを活用し、運行方面別の利用状況を整理し、運行方面の統合などによる車運転手・車両等のリソースの有効活用を示唆

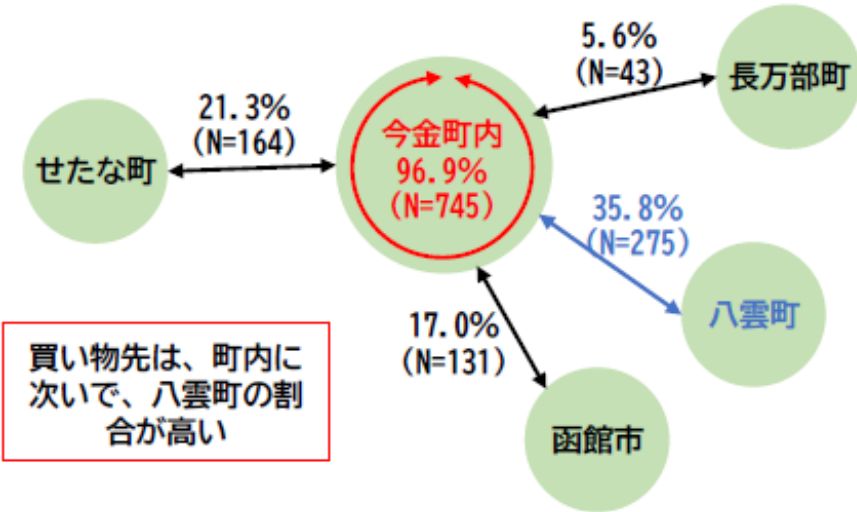
### 2. 町民ニーズ把握調査

- ・通勤・通学圏（町内+せたな町）、買い物圏（町内+八雲町）、通院圏（町内+八雲町+函館市）、私用圏（町内+八雲町）を整理
- ・町内交通（函館バス路線及びルンるん号）の改善点及び移動で困っていることを把握

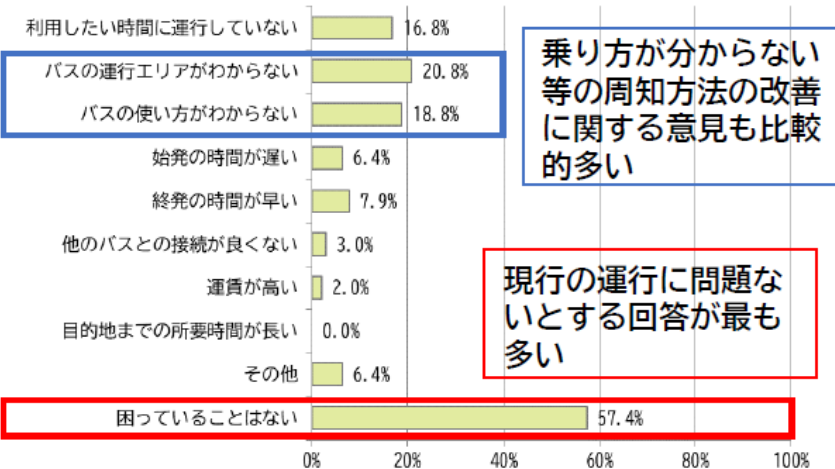
地区名	非保有者割合	地区名	非保有者割合
今金	14.6%	光台	22.7%
御影	22.8%	種川	24.5%
神丘	15.1%	住吉、宮島、奥沢	26.5%
豊田	20.5%	花石	28.9%
鈴金	20.4%	中里	26.7%
八束	18.4%	稲穂	20.5%
田代	19.2%	白石	12.4%
金原	15.7%	日進	22.2%
鈴岡	13.9%	旭台	0.0%
美利河	22.0%		

赤字：町全体の平均（16.4%）以上

## 問9③ 買い物の行先 (N=769)



## 問13 ルンるん号の不便な点 (N=202)

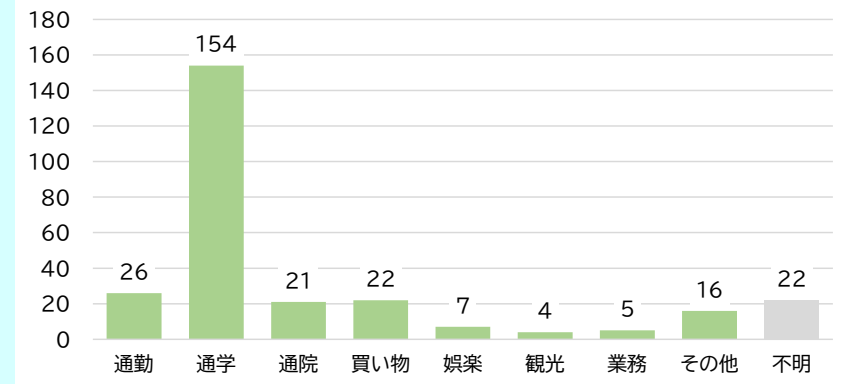


# 今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

## ●事業の結果概要

### 3. バス利用実態調査

- ・町内を運行する全函館バス路線の利用実態調査を実施し、1日あたり243名が利用（うち約6割は通学利用）
- ・車内でビンゴ式アンケート票を活用した、利用実態調査を実施
- ・バス利用実態調査結果から、各バス路線の改善の方向性を整理



バス路線名	バス利用実態調査結果	方向性
瀬棚線 (721系統)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査日の利用者数は187人（うち高校生126名）</li> <li>・自治体間の中間バス停は、利用者0人のバス停も存在</li> <li>・自治体0Dを整理したところ、「せたな町内」での利用が最も多く、次いで、「今金町⇄せたな町」の利用が多い</li> <li>・町内の利用者としては、「市街地地区」及び「西部地区」からの利用者が主であり、「東部地区」からの利用は比較的少ない</li> <li>・とりわけ、道道936号沿いの自由乗降区間からの利用者は、4人/日と少ない状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所要時間短縮及び運行経費の効率化に向けた、道道936号運行区間の廃止 ※廃止検討区間に対する利用実態を考慮した新たな交通モードの運行</li> </ul>
瀬棚線 (743系統)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査日の利用者数は40人（うち高校生40名）</li> <li>・「桧山北高校前」、「今金」での乗降が多い</li> <li>・自治体0Dを整理したところ、「今金市街地⇄せたな町」が最も多く、北桧山高校への通学利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今金町の高校生の通学路線として、現行のサービス水準を維持</li> </ul>
快速せたな号 (710系統)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査日の利用者数は16人</li> <li>・自治体間の中間バス停は、利用者0人のバス停も存在</li> <li>・自治体0Dを整理したところ、「せたな町⇄函館市」が最も多い</li> <li>・今金町内からの利用において、「市街地地区」からの利用はあるものの、「南部地区」からの利用は見られない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者0人バス停に停車しないなど、路線の快速化を検討</li> <li>・八雲町での短絡化など、路線の合理化を検討</li> </ul>

### 4. 町民意見交換会

- ・現況交通実態調査及び町民ニーズ把握調査、バス利用実態調査結果を活用し、さらに詳細な町民の移動実態及び公共交通へのニーズを把握予定

# 今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

## ●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

### 町内交通全般

- ・町民のさらなる公共交通利用を誘発する利用促進策の展開
- ※ルンるん号及び函館バス路線の利用方法などの認知度を改善する取り組みとして、体験乗車会やバス乗り方説明会などの実施を検討
- ※今金バスターミナルや各種施設等を連携した、バス運行情報の見える化（デジタルサイネージの設置含め）の実施を検討
- ※町内交通と地域間幹線系統の接続性を確保するとともに、乗継利便性向上に向けた、共通定期券の企画・販売などを検討

### 瀬棚線 (721系統)

- ・速達性の向上に資する取り組みの実施
- ※自由乗降区間（道道936号）の運行廃止

### 瀬棚線 (743系統)

- ・通学利便性確保に向けた運行継続
- ※現行サービス水準の維持

### ルンるん号 未運行地域

- ・冬場も含めた町民の安心・安全な生活交通の確保に資する、ルンるん号の運行エリアの拡大
- ※現行の運行経費を基準に現ルンるん号の利用実態を加味したサービス水準を検討

### ルンるん号 運行地域

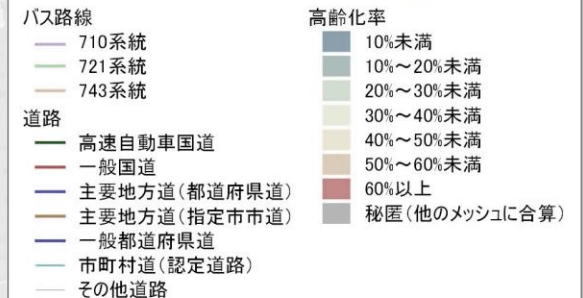
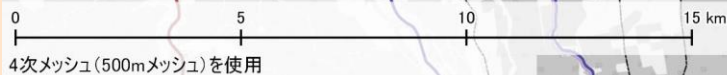
- ・ルンるん号の利用実態に即した運行計画の見直し
- ※現行の運行経費を基準にルンるん号未運行地域への拡大も考慮した運行計画の見直しを検討

### 瀬棚線 (721系統)

- ・自由乗降区間廃止に伴うタクシー料金の低廉化措置の導入
- ※運行区間（種川止まりor市街地まで運行）については、全国的な事例を加味して検討

### 快速瀬棚号 (710系統)

- ・速達性の向上に資する取り組みの実施及び路線の合理化の実施
- ※今金町内バス停（末広十字街～日進間）の廃止
- ※八雲駅前を起点にせたな町～八雲町間、八雲町～函館市間で路線の切り分けを検討



# 今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

## ●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

### 地域公共交通計画の将来像

ふれあい今金「まちづくり」を実現する 安心して生活できる公共交通網の構築  
～人のおでかけや生活を支え、未来を拓く交通網の構築～

#### 基本目標1 持続可能な“ドア・トゥ・ドア”で快適な生活移動を確保

ルンるん号運行地域を対象に、現状のルンるん号の利用状況を考慮しつつ、より町民の生活移動の実態に即した運行エリア及び運行時間帯、便数などの運行計画の見直しを実施

#### 基本目標2 生活移動の幅を広げる“公共交通”で安全な生活移動を確保

ルンるん号未運行地域を対象に、現在運行している函館バス路線に加え、より公共交通を利用しやすい環境づくりに向け、現ルンるん号の利用実態を踏まえた、運行エリアの拡大を実施

#### 基本目標3 地域内資源である“ハイヤーの活用”で利便性の高い生活移動を確保

函館バス路線で自由乗降区間を実施している道道936号沿線地域を対象に、生活移動の継続的な確保を目的に、ハイヤー料金の低廉化措置を実施

#### 基本目標4 生活圏を考慮した“地域間幹線系統の見直し”で将来にわたって広域圏の生活移動を確保

町民や今金町への公共交通を活用した移動を継続的に確保していくことを目的に、町内を運行する地域間幹線系統のサービス改善及び合理化を函館バスに対して提案

#### 基本目標5 公共交通をより身近に感じられる“利用促進策の展開”で公共交通も便利と感じる意識を醸成

公共交通モードの見直し・導入と同時並行で、交通モードを“知って”“使ってもらう”機会の創出として、各種利用促進策を展開

## ●事業実施の適切性

新型コロナウイルス感染症の影響により、各種調査の実施が後ろ倒しになっているものの、予定している事業内容は年度内に完了予定

## ●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄